



発行所 東京薬科大学 新聞会  
 責任者 藤村ゆりか  
 新聞会 会員 大募集

# 国試結果発表

## ついに八割台

昨年度の薬剤師国家試験の結果が発表された。それによると本学の合格率は八十九・三九%と初めて八割台。以前から「合格率九割は最低ライン」といわれてきただけに今回の結果は深刻なものといえよう。

平成二年度第七十六回薬剤師国家試験の結果が発表された。本学の国家試験合格率は、  
 新卒者 八十九・三九%  
 既卒者 二十九・五五%  
 全国平均は、  
 新卒者 八十四・八六%  
 既卒者 四十六・七六%

これらの者は国家試験の際かなり高い割合で不合格になると述べられた。では、これらに該当する学生はどの様な対応をすればよいのか。この質問に対しては「基礎をしっかりと固める」「そして「早い時期からの対策」を述べられた。国家試験は広範囲から出題される。そのためには基礎をおろそかにしてはならない。また、卒業試験後から国家試験までの一カ月間余りには住居移転や就職先の研修等で、十分に勉強時間がとれない恐れもある。このため早い時期からの対策が必要なのである。特に不安な者は国家試験の模擬テストや、専門予備校の講義の受講などが考えられる。

これらに対する姿勢が求められている。そのうち「メリハリ」の効いた勉強法を望むというところだ。つまり、  
 一、三年までの必修教科の評定が三・八五以下の者  
 二、四年次で再履修を要している者  
 三、卒業試験で六割以下の成績の者  
 一、授業の欠席はもろろん遅刻をしない。  
 二、解答の丸暗記にみられる容易で甘えた勉強法を改める必要がある。

という結果であった。ちなみに合格率でトップを飾ったのは摂南大学で合格率は九十九・四九%、既卒者はなんと百%であった。本校の今回の合格率は初めて九十%を下回っているが、これは全国平均が例年より五%下回っていることも原因の一つではある。しかし不合格者の内訳を見るとその八割以上を男子学生が占めていて、この現象は決して見過ごされるべきものではなく、合格者の低下に少なからず影響を与えている一つの要素と捉えられている。学校側は今後の方針は現在教務委員会検討中との事であるが、某大学のようになり成績優秀者だけを厳選して合格率を引き上げるような、何の根本的解決にもならないような方法は取りたくないとのことであった。となると学生自身の自覚と努力が何よりも大切になってくる。それでは、学生にはどのような

この最後の飾り「大イブニング」である「マラソン大会」が行われた。当日、風は多少強かったものの晴天に恵まれ、気温も高すぎずマラソンには絶好のコンディションとなった。参加者は例年よりも多くなり、防具を身につけたり、団旗を抱えたり、そして頭や体

この大会は例年よりも多くなり、防具を身につけたり、団旗を抱えたり、そして頭や体

「今年に例年のように補助員を一年生から募集せずに行っても良かった。コースはきついな所もあったが、それさえもよく頑張ってくれた。元気がよく非常に良い大会だったと思う」

「今年に例年のように補助員を一年生から募集せずに行っても良かった。コースはきついな所もあったが、それさえもよく頑張ってくれた。元気がよく非常に良い大会だったと思う」

研究員	史基振	啓裕中	嶋藤趙	小伊	化物物	生植植	男臨薬	子生用	研究員	1	2	3
研究員	藤田崎木野塚	佐見水荒館飯	藤田崎木野塚	佐見水荒館飯	藤田崎木野塚	佐見水荒館飯	藤田崎木野塚	佐見水荒館飯	研究員	1	2	3
研究員	藤田崎木野塚	佐見水荒館飯	藤田崎木野塚	佐見水荒館飯	藤田崎木野塚	佐見水荒館飯	藤田崎木野塚	佐見水荒館飯	研究員	1	2	3
研究員	藤田崎木野塚	佐見水荒館飯	藤田崎木野塚	佐見水荒館飯	藤田崎木野塚	佐見水荒館飯	藤田崎木野塚	佐見水荒館飯	研究員	1	2	3

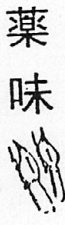
東京国際美術館  
 ハイビジョンで見ると新しい美術

東京国際美術館  
 ハイビジョンで見ると新しい美術

東京国際美術館  
 ハイビジョンで見ると新しい美術

「今年に例年のように補助員を一年生から募集せずに行っても良かった。コースはきついな所もあったが、それさえもよく頑張ってくれた。元気がよく非常に良い大会だったと思う」

「今年に例年のように補助員を一年生から募集せずに行っても良かった。コースはきついな所もあったが、それさえもよく頑張ってくれた。元気がよく非常に良い大会だったと思う」



# 新歓行事終了

## 学生生活の新たなスタートへ

昨春秋に発足し、新歓期にむけて活動してきた平成三年新歓実行委員会が、五月十一日のマラソン大会をもって全ての行事を終了させた。今年のテーマは「新たなスタートをさがして」となっている。様々な行事を終えた各部門での手ごたえはどうであったらうか。部門ごとに振り返ってみたい。

まず、文化部門主催の行事としては「春展」・「音楽祭」・「ダンスパーティー」が行われた。「春展」に於いて多少の宣伝不足はみられたようだが、「ダンスパーティー」ではピンコ大会やカラオケなどでイベントを盛り上げた。昨年以上の内容面の充実をはかっていた。ただ「音楽祭」については天候に恵まれなかったため会場が談話室に変更し、通年おりのコミプラを利用して出来なかったのが少し残念であった。

我々の世代はいわゆる第二次ベビーブームによる受験生過多の世代であった。だからどんな大学でも受験生は集まり、入学者も増えたため、大学が多少いい加減なことをしていても許される「大学を甘やかす」傾向にあった。ところが平成四年度をピークに様相は変わってくる。受験年齢の人口の減少にもなる受験生の激減のためである。先頃の大学審議会の答申は、来る苦難の時代を大学の自己革新、つまり大学の質を向上し、充実させることで乗り切るようにした。一部の大学で見られた今までのようないい加減な授業、いい加減な運営、いい加減な方針であることを示している。答申では「質的充実」の

学術部門の行事には「学術研究発表会」があった。会場には、新入生をはじめ多くの学生が訪れ、研究発表に耳を傾けていた。「スタッフをはじめ主催者側は」「スタッフをはじめ多くの人の協力を感ずることが出来た。参加者も多く成功したと言えるのではないか」と語っている。

同好会部門主催では「スポーツ大会」を行った。ほぼ昨年と同じような形式で行われたが、宣伝不足からか一年生の参加が少なかつたようだ。主催者側としては、来年は新企画も取り入れ、一年生の参加を増やすよう検討する構えである。

体育部門主催の行事は新歓祭の締めくくりでもある「マラソン大会」だった。コースもそれなりに難所があったようだが、参加人数も多く、参加者は各自のペースでそれぞれよく走っていた。

今年三月末の日本薬学会開催に伴い、校舎の使用が不可能になることから、準備の面で多少の気がかりがあったようだが、たいした問題もなくどの部門も健闘していた。

新歓祭行事が全て終了した今、新歓実行委員会の尾池泰之をさがして、「新たなスタートをさがして」というテーマのもと、新入生は新入生なりに新たなスタートを見つけたらうし、また上級生は上級生なりに、初心に帰るといふ意味で新たなスタートを見つけたらないだろうか。色々と失敗もあったが無事に終えることができ安心している。次回はこれからの失敗も活かして頑張りたい。

①自ら考え、判断させる教育として、小人数教育や対話・討論型、双方向的なゼミナール形式的な授業を広く導入する。  
②従来の画一的なカリキュラム観にとらわれな個性的なカリキュラムを自由に

ない。どの部門に対して来実したものをより、内容の再検討と新たな企画を期待したいところである。

最後に新歓期を終えた各部門長に、新入生に対する希望を述べてもらった。

新歓実行委員会委員長 尾池泰之氏  
一年生に独特な雰囲気というものが感じられぬ。他人の意見を通じて、独自の色を自分達の手で作って出していって欲しい。

体育部門長 滝沢浩氏  
単科大学であるため、とくに考え方がちがいが自ら周囲に目を向け、広い考えを持って生活して欲しい。

文化部門長 長島伸治氏  
けじめのある生活を送って欲しい。また、横のつながりだけでなく上下関係をも大切にし、大学生活の充実化をはかって欲しい。

学術部門長 友邦陽史氏  
クラブ内での関係だけではなく行事は成り立たない。クラブの枠を越えた縦の関係、横の関係を大切にして欲しい。

同好会部門長 桜井裕史氏  
楽しく充実した大学生活を送るために、勉強に遊びにそしてクラブに頑張っていて欲しい。

新歓祭が終わったということはつまり新入生の為に上級生がお膳立てをする時期は終わったことだ。これから新入生は自分で責任的に行動しなければならぬ。新入生自らの積極的な行動が期待されることだ。

また、上級生もいままでもいゆる「仲間」としてつきあうことになる。そういった意味で、新歓祭終了は上級生にとっても「新たなスタート」といえるだろう。

## 自治会選挙始まる

五月十四日に選挙管理委員会が発足した。今年も例年になく活動の遅れが心配されてはいたが、とらえあすその仕事は軌道に載ったようである。今回の遅れについて、選挙管理委員会が「前回は、選挙管理委員のあまのギャップに現実と大講義室の一方通行の知識の伝達に終始している授業、融通のきかないカリキュラム、試験内容は過去問とおりと公言して授業を手抜きする教員、閉ざされたキャンパス」

この状況を見て、我々はこのようにいふべきではないか。答申の具休案にあつたようなすばらしい環境に少しでも近づきたい。今からでも動き出すべきだ。大学審議会は本来の学問を求め、学生にとって余りにも遅すぎた。

補本ですでにそのような方向に動き出すべく準備している。

(大林 裕幸)

をはかって欲しい。

今回の選挙は本学の自治会の最高執行機関である、執行委員会の委員長及び副委員長と一執行委員長は本会の全機関を統率し、本会を代表する」と記されている。自治会委員が無関心で良いと言うことは出来ない。昨年のこの選挙の投票率を見てみると五十一・一％とたいへん低いものであった。有権者である学生の無関心が主な原因であろう。学生個人個人の問題なのだ。学生の自覚を求めたいところである。

今回の選挙の立候補者であるが、去る二十日から二十二日にかけて行われた公募に於いて、執行委員長一名、同副委員長男女各一名の枠に委員候補に小田真之氏、副委員長候補に宮坂仁氏、藤原尚子氏の二名が立候補している。従って投票は信任投票の形式で行われる。

選挙の日程は以下の通りである。

二十七日、二十八日 立会演説会（コミプラ）  
二十九日、三十一日 投票（部室棟、コミプラ）

立候補者名 小田 真之  
委員長 宮坂 仁  
副委員長 藤原 尚子

さる五月十七、二十四日の二回、執行・監査・新聞と各部門代表を集めて予算委員会発足に向けての説明会が第二会議室で行われた。その中で昨年度自治会分配金決算報告書の書式と提出期限、昨年度監査基準の内容、本年度監査基準の検討について、予算決定までのプロセスが説明された。

これに從つて、予算委員会は監査基準検討委員会の設置承認を自治会委員会に要請。執行・新聞と各部門は五月三十一日まで決算報告書を監査委員会に提出、監査を経て自治会委員会に承認を受け、その後予算会議が開かれる予定。

今年度は監査委員の毎年の人手不足に加え、予算委員会の招集が著しく遅れたことなどから、今期学生大会開会への影響が心配されている。

## 行事予定

五月二十七、三十一日  
フレッシュマンキャンプ

早いもので新学期が始まってから二月たつ。四月五日にゴールデンウィークがあるのに対して六月は祭日もなくまた、雨ばかり降り誰かが家の中でじっとしているしかないというわけであまり人気のない月とわけて、あじさいの花にわけて、あじさいの花に代表されるこの月の植物の姿には、すばらしいものがあつた。ところでこの植物、春に比べると驚くべき成長をしたといつても、まだ夏を乗り切るだけの力を備えていない。その植物達が力を蓄えるのは、まさにこの時期、静かに、しかし着々と力を貯め続け夏の間は、この様な書きを耐え抜いてゆくのだ。

これは私達学生について数多の行事、一段落ついて、ほっとしているこの時期。人知れず静かに、しかし着々と努力している人が夏の試練、つまり前期試験をうまく乗り切ることが明らかになった。

実は夏に向けてあらゆる要素が詰まっているこの六月。気を緩めず過していきなさい。

今年度予算に向けて

さる五月十七、二十四日の二回、執行・監査・新聞と各部門代表を集めて予算委員会発足に向けての説明会が第二会議室で行われた。その中で昨年度自治会分配金決算報告書の書式と提出期限、昨年度監査基準の内容、本年度監査基準の検討について、予算決定までのプロセスが説明された。

これに從つて、予算委員会は監査基準検討委員会の設置承認を自治会委員会に要請。執行・新聞と各部門は五月三十一日まで決算報告書を監査委員会に提出、監査を経て自治会委員会に承認を受け、その後予算会議が開かれる予定。

今年度は監査委員の毎年の人手不足に加え、予算委員会の招集が著しく遅れたことなどから、今期学生大会開会への影響が心配されている。

## 論説

### 遅すぎた大学審答申

①教育研究環境の高度化の優秀な人材確保・育成  
②生涯学習への対応  
③履修形態の柔軟化④多様な学習成果の評価⑤地域社会への貢献

を提示しているが、特に「一教育機能の強化」の内容

## 編集後記

今回は偉大な川上編集長が、編集後記を短くしようといふので大短くするつもりでいたら、今日はあまり平和だったので、普段より長くなった上に、書く人数が減ってしまいました。この続きは一茶がまた明日の晩お話しします。(烏龍茶一茶)

★先月初めにたいが迷惑をかけたような気がする。この次は、少ない人数でも、頑張ろう。

○おの様な時間を送った皆さん、お疲れさまでした。こんな事に負けないで強く生き抜いていきたいと思います。と、思う今日この頃であります。(異邦人)